

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 12 月 5 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500785		
法人名	医療法人社団ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ千織り庵		
所在地	広島県福山市王子町		
	電話番号	084-926-0833	
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 12 月 18 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 5 年 11 月 22 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所のコンセプト『千の想いを紡ぎ織り上げ、笑顔と温かさで包み込む家』にあるように、施設にいても家庭の温かい雰囲気を感じられ、介護施設らしくない環境を意識しています。事業所が住宅街の中に位置していることから、地域との繋がりを大切にしており近隣の方々との交流や地域行事への積極的参加をお客様と行うことで、繋がりを深めていきます。同時にご家族様との関わりも途切れることのないように日々の面会や病院受診の同行の依頼等を行い充実するように取り組んでいます。</p>
---

<p>住宅街にあり、医師会館や保健所、社協等、行政機関が近くにある。また、散歩で行ける距離には水辺の公園もあり便利で住みやすい環境である。又、事業所の目の前には畑があり季節の野菜等が見られ、懐かしさを感じる事ができる。ケアに関しては、コンセプトにある目標を基に笑顔と温かさ、そして家族の様に家庭的な雰囲気の下、お互いに助け合い、できる事はそっと手助けし、できる事は優しく見守り、利用者本位の支援を心掛けている。常に寄り添い、日々の変化を見逃さず、一日を大切に過ごしてもらおう事を全職員が統一した対応をするよう取り組まれている。1ユニット(9名)という事もあり、一人ひとりに密に接する事ができる。医療面に関しても協力医療機関との連携が構築されていると共に訪問看護の利用もあり、日々の健康管理ができていて安心である。又、作業療法士も定期的に訪問され、機能維持の指導も受けられている。地域との交流はコロナ禍の為、できていないが、町内会に加入している為、地域の情報は把握できている。協力できる事には参加し、以前の繋がりは途切れていない。利用者が馴染みの場所で安心、安全に過ごせるよう地域、また、家族との信頼関係も築かれ、三者で利用者を支えられ安心できる事業所である。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所玄関に掲示	企業理念、法人目標、事業所目標を基に個人目標を作成し達成に向け日々取り組まれている。又、目につきやすい場所(玄関や事務所等)に掲示もされ、振り返る機会と再認識の機会とし、実践に繋げる様務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、開催はないが町内の清掃などに参加し協力している	コロナ禍の為、地域行事も中止が多く、参加する事はできない状況であるが、町内会に加入しているので回覧板が回り地域の情報は把握でき、清掃活動には参加し、交流が途切れない様務めている。又、日々散歩していると近隣の方から声かけしてもらったり、野菜等頂く事もあり、地域の一員として理解が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において地域向け勉強会はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において運営推進会議の開催ができていない	コロナ感染予防の為、運営推進会議はできていないが、定期的に書面にて委員の方に現状や利用状況、取り組み等について報告し、意見等頂くよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談。確認事項があるときは、関係各所に連絡をとり連携できるようにしている	疑問点や困難事例等相談事項が生じた場合は電話等で相談している。又、出向く事もある。その際には、現状や取り組み等についても報告しアドバイス等得る事もあり、常に協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間と裏口は防犯上、施錠しているが日中の施錠は行っていない。身体拘束を行わない為に3カ月毎に話し合いを行い、勉強会を行うことで身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	基本身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。不穏な方には見守りと気分転換を図るため散歩に出かける等し、抑圧、制止しない支援を心掛けている。又、法人全体で身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催すると共に内容については持ち帰り、内部研修を行い、正しく理解するよう努めている。。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法定研修においては、西エリア全体で必要な研修を受講できる体制を構築。法定研修の年間計画をたて100%受講できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居されている成年後見制度を使用されているお客様はおられないが、勉強会や自己学習をして頂く事で、制度や仕組みについて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際は文書での通知や契約、解約時は丁寧にお客様に説明を行い、ご理解納得して頂いたうえで署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一度ご家族様アンケートを実施している。結果は郵送にて周知し、施設内にも掲示を行っている。普段から要望や意見は聞くように努めている。	家族の訪問も制限があり、窓越しやライン等で会ってもらいその際、現状について報告する中や毎月書面にて状況報告する時にも意見の把握に努めている。又、年1回家族アンケートを実施し、結果や改善等については各家族に送付すると共に事業所にも掲示している。色々な場面での意見等は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間を設けて職員の意見、思いを聞いている。また、個人的に話がある場合、その都度対応している。	日々気付きがあればリーダーに伝えられている。又、ミーティングや申し送り時にも聞く機会を設けていると共に年2回の目標評価の際の個人面談でも把握するよう努め、運営にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々と話を行い、各自が向上出来るように話をおこない、役割分担等を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の実績や向上心のある職員への、研修参加の呼びかけを行い、参加へと繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議に参加し、事業所の方と交流や意見交換を行うことで自事業所に戻ってからのサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中で本人様のご様子の観察を行い、不安な事や要望がないか耳を傾け、気軽に話せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡の折には、普段の生活情報をお伝えし、ご家族様からの要望を聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてGH以外にも同法人内での他施設の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の楽しみとなるようお話を交えながら、一緒にお手伝いをして頂き、共同生活をしている気持ちを持って頂けるようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態変化に応じて都度近況報告を行い、信頼関係の構築に努めている。家族様と一緒に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しでの面会や、WEB面会を行い、可能な限り交流が持てるよう支援している。	感染予防の為、家族の訪問も制限があるが要望には柔軟に対応し、窓越しやライン等でお会いしてもらい、家族との絆が途切れない支援に努めている。電話の取り次ぎも希望に沿うようになっている。馴染みの場所には出かけていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置の配慮、居室に閉じこもりぎみの方は本人様の気持ちを尊重しながら、声掛けを行い、お客様同士でお話して頂けるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援・相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様や本人様の意向を大切にケアプランの作成に努めている。	日々の会話や利用者同士の会話などから汲み取ることがある。又、個別対応時、忌憚のない会話からも把握する事もあり、思いに対しては可能な限り、思いに沿うように努めている。表出困難な場合は生活歴を基に選択肢を出し、その時の表情から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に生活歴、生活環境を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、管理日誌、申し送りノートを確認し職員同士の申し送りを聞き、現状把握に努めている。その都度情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月の見直しも行い定期的にカンファレンスや意見集約を行っている。必要時には都度カンファレンスを行うようにしている。	本人、家族の要望、主治医の所見、日々の業務から課題やニーズについて職員の意見、また、作業療法士の意見等を基に担当者会議で検討し、現状に即して計画を作成している。家族の承諾も得ている。状況変化があれば即見直ししている。モニタリングは毎月、見直しは通常3ヶ月。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、個別記録、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。また記録物、回覧ファイルを確認するようにしている。確認印として各職員が捺印している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所で出来る範囲内で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域資源の活用等が行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の確認を行い、お客様のご希望の医療機関を利用して頂いている。緊急時や何か異変等あれば、医療機関に報告し指示をもらっている。	協力医療機関の往診が月2回、歯科は個々のかかりつけ医となっていて、家族対応となっている。又、訪問看護を利用され、週1回訪問があり日々の健康管理ができています。協力医も24時間指示が得られる体制であり、常に適切な医療が受けら安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護訪問時に報告、相談している。また異変等があれば、連絡し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、状況確認として病院へ連絡を行っている。また、定期的に家族様や病院に連絡を行い、情報を頂いている。 退院後は、病院と主治医と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してのアンケートを実施しており、状態に応じてご家族様と話し合いを行っている。	利用開始時、終末期に向けた指針を基に説明し、理解は得ているが重度化した場合には、家族、主治医、訪問看護師、職員等で話し合いを持ち、家族の意向を確認し意向に沿った支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを作成し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行っている。 有事の際には地域の方へ協力を求めるよう指導を行っている。	年2回消防署指導1回、自主1回、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、個々の実践力を身に付け、慌てず速やかに対応できる様取り組まれている。コロナ禍の為、地域への周知はできていないが、以前からのつながりで協力体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常日頃から気をつけている。	人生の先輩であり、年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならない様周知されている。気付いた時には注意し合い、プライバシーの確保に努め勉強会もズームで行い、後日報告書も提出し、ブレのない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を尊重するように心がけている。 本人様にわかりやすいように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意見を聞き、出来る範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでいただいたり、整髪や整容などその方に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に、お客様の希望の献立をきき、提供している。お盆ふきなどできる範囲の事は協力して頂いている。	キザミ、トロミ食等、身体状況に合わせた形態となっている。利用者の希望のメニューを提供する事もあり、食が楽しみとなる様取り組まれている。テーブル拭きや御盆拭き等、できる方にはしてもらい力量発揮の場面作りをしている。また、食事準備の匂いや音で五感刺激となる様取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量をチェックし、一人ひとりに応じた量や時間での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は必ず口腔ケアを行っている。口腔ケアが困難な方は職員が手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあったタイミングでトイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄を心がけている。	日中は個々の時間帯と表情や行動から把握し、トイレ誘導を行い、立位、座位をする事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かすよう努めている。立位がむずかしい方も2人介助でトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便のリズムや状態を把握し、主治医相談のもと、個々に応じた下剤の調整を行っている。起床時に水を提供する、10時に牛乳を提供する等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前日入浴されていない方を優先しているが、入浴希望されている方は極力叶えるように支援している。また、一人ひとり湯の張替えを行っている。	週2～3回、希望により入浴してもらい、一人ひとりお湯は入れ替え清潔保持に努めている。湯温の希望や回数などにも柔軟に対応し、入浴が楽しみとなる様支援に取り組まれている。清拭や足浴も適宜行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食は個々の起床時間に合わせて提供している。また、お客様の状態に応じてお昼寝の声掛け、支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については把握できている。不明点があれば薬局に確認を行っている。薬の変更があれば都度職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様に出来る役割や楽しみごとの支援を行っている。塗り絵、歌など、お客様の趣味に合わせて準備等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍のため、外出支援を行っていない。	コロナ感染予防の為、外出支援はできていないが、できるだけ散歩に出かけ、外気に触れる機会と、その時々季節や五感刺激となる支援を心掛けている。又、ドライブで車中からお花見等景色を眺めてもらい気分転換してもらっている。楽しみごととして室内行事を多く企画し楽しんでもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持参されている方はいない。必要な時はご家族様に説明等は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了解のもと、電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に飾りつけし季節感を出している。ソファやテレビを配置している。掃除に関しては、トイレ掃除、フロア居室の清掃は毎日行っている。定期的に掃除の日を設け、施設全体の掃除を行っている。	家庭的な雰囲気の玄関であり、共有の場には季節ごとの装飾品が飾られている。リビングダイニングはとて広く大きなソファも置かれ、清掃も行き届き、明るく大きな窓からお庭も眺められる。室温にも配慮され、不快な匂いや危険箇所もなく、快適に過ごせる共有の場である。対面キッチンから音や匂いが五感刺激となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席配置の工夫を行い、思い思いに過ごせるように支援している。また、居室にて一人の時間が過ごせるよう要望にあわせて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れたものなどを持参していただいている。また、ご家族様と話をし写真なども持参して頂いている。	テレビ、収納ケース、家族との思い出の写真、読書の好きな方は本を、絵の好きな方は画用紙をそれぞれ持ち込まれ、自宅に近い環境づくりをされ落ちついて過ごせるよう工夫している。又、カレンダーや時計も置かれ、時の認識に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自由に歩行できるよう、フロアの家具の位置を調整している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない			○	④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームえんじゅ千織り庵

## 目標達成計画

作成日: 令和 5 年 12 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍において運営推進会議の開催が感染予防の為出来ていない事、また地域行事も中止が多く積極的に参加が出来ていない状況にある	感染症状況に応じて運営推進会議の開催と地域との関わりの再構築を行う	感染状況を踏まえながら、会議の開催や地域交流への積極的参加が出来るように声掛けや参加を行っていく	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。